月刊都響
February2024

ヤングシート

気を付けてね！ ホールでの過ごしかた

〇携帯電話や音が鳴るモノは電源を切りましょう。
〇演奏中はお話しないで静かに聴きましょう！
　周りの人も演奏を楽しみに来ています。
〇録音・録画、写真撮影は禁止です。

2024
2/11

Promenade Concert

プロムナードコンサート No.406

会場：サントリーホール

指揮／エリアフ・インバル

♪ブラームス：大学祝典序曲 op.80（約 11 分）

♪ベートーヴェン：交響曲第 8 番 ヘ長調 op.93（約 26 分）

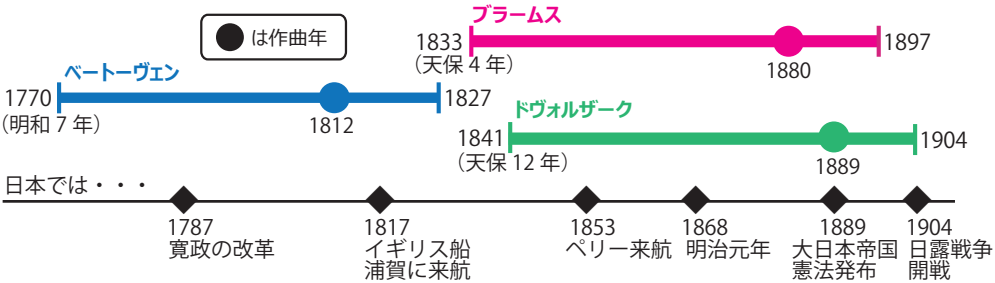
♪ドヴォルザーク：交響曲第 8 番 ト長調 op.88（約 37 分）

東京都交響楽団

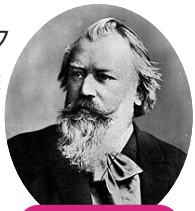
PROGRAM NOTES

今日のコンサートでは都響を30年近くにわたって指揮し、現在は「桂冠指揮者」のタイトルを持つエリアフ・インバルが登場します。88歳を迎えるインバルのエネルギッシュなタクトで、オーケストラの名曲をお楽しみください。

Timeline



♪ブラームス：大学祝典序曲 op.80


ブラームス

ヨハネス・ブラームス（1833〜1897）は北ドイツの港町ハンブルク出身の作曲家で、J.S. バッハやベートーヴェンの築いたドイツ音楽の伝統を受け継ぐ存在として知られています。彼の作品にはしっかりとした骨組みと、心に響く豊かな表情が、絶妙なバランスで織り込まれています。

ブラームスは40代に入ってから二曲の交響曲やヴァイオリン協奏曲などを発表し、作曲家として充実した日々を送っていました。そんなブラームスに、ポーランドの由緒あるブレスラウ大学から名誉博士号が贈られることになりました。この《大学祝典序曲》は、そのお礼として 1880 年に作曲されたものです。

「大学祝典」といっても、かたくるしい儀式用の音楽ではありません。ブラームスは当時の学生たちの間で歌われていた“学生歌”を４つも登場させ、それらの民謡風のメロディーに豊かなハーモニーで厚みを持たせました。そしてオーケストラのカラフルな響きによって、若者たちが自由を謳歌するような迫力のある音楽に仕上げています。

♪ベートーヴェン：交響曲第８番 ヘ長調 op.93

ベートーヴェン

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770〜1827）は９つの交響曲を遺しています。なかでも「英雄」「運命」「田園」「第九」といった愛称で親しまれる作品はとくに有名ですが、第８番はとくにニックネームもなく、９曲の中では少し地味な作品かもしれません。実は作曲当時も、同時期に作られた第７番に比べると第８番の人気は今ひとつ。でもベートーヴェン本人は第８番の方をとても気に入っていました。「第８番のほうがずっと優れているからこそ

聴衆には理解されないんだ」と語ったそうです。

初演は 1814 年 2 月。明るくチャーミングな曲想で、ベートーヴェンの他の交響曲に比べると比較的コンパクトです。ハイドンやモーツァルトといった一昔前の交響曲のスタイルのようにも感じられますが、勢いを感じさせるテンポ感や、豊かな強弱変化には、やはり人気絶頂を迎えていたベートーヴェンのエネルギーを受け取ることができます。

第 1 楽章は序奏を持たず、ハジけるような華やかな主題から始まります。すぐにエレガントな舞曲風な 2 つ目の主題が登場してコントラストを作ります。交響曲の第 2 楽章はゆったりとした音楽となるのが普通ですが、ベートーヴェンはそうせずに、管楽器がリズミカルにテンポを刻む中、弦楽器が愛らしいメロディーを奏でる楽章にしました。「メヌエット」という伝統的な舞曲のスタイルによる第 3 楽章では、中間部でホルンとクラリネット、チェロパートが活躍します。ロンド形式の第 4 楽章は、生き生きとした 3 連符のリズムと同音連打が印象的で、活力のある音楽で全体を締めくくります。

♪ドヴォルザーク：交響曲第 8 番　ト長調　op.88

ドヴォルザーク

アントニン・ドヴォルザーク（1841～1904）は、ボヘミア（現在のチェコの西部地方）の作曲家です。彼はブラームスにその才能を見出され、ヨーロッパのみならず新大陸アメリカにも音楽院院長に呼ばれるほど国際的な活躍をしました。イギリスでもドヴォルザークの人気は高く、生涯に 9 回も訪問して自分のオーケストラ作品を指揮しました。そうした成功は、ドヴォルザークにお金のゆとりを与えてくれました。そこで彼は、故郷ボヘミアにあるヴィソカーというのどかな村に、夏の別荘を買うことにしました。美しい森と鳥たちのさえずりに囲まれながら、ドヴォルザークはその家で幸せな気分で作曲に専念することができました。そうして生まれた名作の一つが、この第 8 番の交響曲です。

第 1 楽章は光り輝くようなメロディーや、まるで鳥の声のような爽やかな響きが聞こえます。ゆったりとした第 2 楽章は弦楽器の語りかけるようなメロディーが印象的です。哀愁に満ちたワルツの第 3 楽章を経て、華やかなトランペットのファンファーレで開始する第 4 楽章では、チェロがゆったりとしたメロディーを聴かせ、輝かしいフィナーレを迎えます。

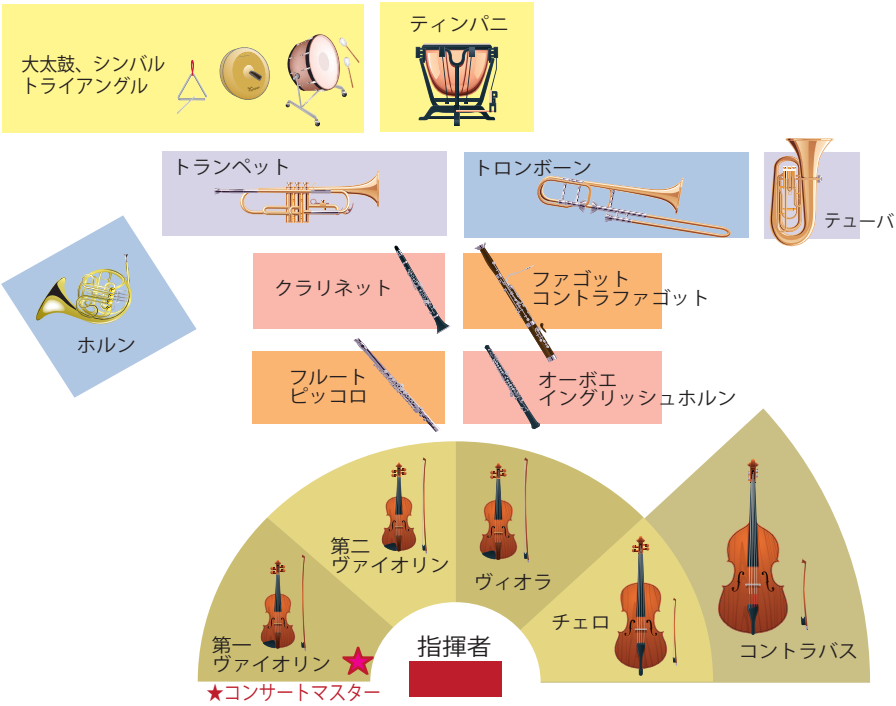
指揮　エリアフ・インバル　Eliahu INBAL, Conductor

©Rikimaru Hotta

1936 年イスラエル生まれ。これまでフランクフルト放送交響楽団首席指揮者（現名誉指揮者）、チェコ・フィル首席指揮者などを歴任。都響には 1991 年に初登壇、特別客演指揮者、プリンシパル・コンダクターを務め、2 回にわたるマーラー・ツィクルスを大成功に導いたほか、数多くのライヴCD が絶賛を博している。『ショスタコーヴィチ：交響曲第 4 番』でレコード・アカデミー賞〈交響曲部門〉、『新マーラー・ツィクルス』で同賞〈特別部門：特別賞〉を受賞。仏独政府およびフランクフルト市とウィーン市から叙勲を受けている。

2014 年 4 月より都響桂冠指揮者。マーラーの《大地の歌》、ブルックナーの交響曲第 8 番などの大作で精力的な演奏を繰り広げ、話題を呼んでいる。

オーケストラ配置図（2月11日 プロムナードコンサートNo.406）



※楽器の配置は一例です。当日のステージで確認してください。

TMSO 東京都交響楽団

　東京オリンピックの記念事業として1965年に東京都が設立しました。都響（ときょう）という愛称で親しまれています。

　上野の東京文化会館を本拠地として、サントリーホールや東京芸術劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。その他、交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』などゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動に取り組んでいます。

　2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。